令和７年１２月１６日

秩父市議会議長　堀　口　義　正　様

まちづくり委員長　木　村　隆　彦

ま ち づ く り 委 員 会 行 政 視 察 報 告 書

１　期　日　　令和７年 10 月 15 日（水）～17 日（金）

２　視察先　　山口県宇部市、山口県山口市、山口県山陽小野田市

３　参加者

委員長	木　村　隆　彦		副委員長	小　松　穂　波	
委　員	出　浦　章　恵		委　員	黒　澤　秀　之	
委　員	内　田　　均		委　員	髙　野　　宏	

４　視察目的

山口県宇部市　「農業政策」

○　市の概要

宇部市は、本州西端の山口県の南西部に位置し、西は山陽小野田市、東は山口市、北は美祢市に接し、南は瀬戸内海に面している。気候は、温暖で、雨が比較的少ない典型的な瀬戸内海式気候で、市中央部以北の丘陵地には豊かな自然があふれ、様々な動植物が生息している。また、南は海に面していることから、山と海の幸にも恵まれている。市街地には真締川や厚東川が流れ、貴重な水辺環境を有している。宇部市発展は、我が国のエネルギーの需要構造の転換にいち早く対応し、近代的な工業都市へと変ぼうを遂げ、現在も瀬戸内有数の臨海工業地帯を形成している。また、医療面では、第三次救急医療機関である山口大学医学部附属病院をはじめ、数多くの医療施設が立地するとともに、他市と比較して市民一人当たりの病床数や医師等の医療関係資格者も多く、医療環境が充実している。

○　事業の概要

宇部市は、荒滝山や霜降山の緑あふれる山地、真締川の豊かな水辺環境を有している。そのような環境の中で、水稲を中心とする複合経営が主体で、北部中山間地域では水稲・麦等

の土地利用型農業を展開するとともに、キュウリ・ナス等の露地野菜の作付けが行われている。小野地区は「山口茶」で知られるお茶の名産地で、その生産量は県内最大である。また、南部地域では、水稲に野菜を組み合わせた都市近郊型農業が行われている。

山口県山口市　「山口市スマートシティ推進ビジョン」

○　市の概要

山口市は、豊富な緑や清澄な水を有する自然に満ちた都市となっている。また、大内氏時代や明治維新関連の歴史や文化資源が今に残されており、湯田温泉などを含めて、観光地としての魅力も備えた都市となっている。面積は 1023.23 平方キロメートルと県内最大である。山口市は、県のほぼ中央に位置し、南は瀬戸内海に面し、東は防府市、周南市、西は美祢市、宇部市、北は萩市、さらに島根県津和野町、吉賀町に接している。平成 17 年 10 月に山口市、小郡町、秋穂町、阿知須町、徳地町の１市４町が合併、平成 22 年１月に阿東町と合併し、県内最大の市域を有するまちとなっている。

○　事業の概要

人口減少・少子高齢化の進展や人生 100 年時代の到来など、社会情勢が目まぐるしく変化している中、この度の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、行政のデジタル化の遅れや大都市圏における人口集中のリスクなど、様々な課題が顕在化し、また、社会全体におけるデジタル化の進展や地方移住への関心の高まりなど、人々の働き方や暮らし方への意識の変化を生じさせている。 こうしたことから、国は、令和３年９月にデジタル庁を設置し、国全体でデジタル化の加速や、デジタル技術を活用した地域脱炭素の取組の推進等、強靭で活力ある地域社会の実現に向けた取組が進んでいる。こうした人口減少、少子高齢化などの社会情勢の変化とともに、働き方や暮らし方という、いわば生き方への意識が変化する中、市内のあらゆる地域に住み続けることができるように、高齢者を中心とした市民の移動手段の確保に向けた公共交通の充実や利便性の向上等の交通分野を始め、医療・介護や防災、子育て・教育、産

業など暮らしにおける様々な分野の課題に対応していくことが求められている。こうしたことから、山口市では、スマートシティの推進を通じた市の目指すべき姿や取組の方向性等をビジョンとして位置付け、デジタル社会や脱炭素社会などの新しい時代の流れへの対応を進めることで、地域課題の解決や地域経済の活性化を図り、 地方創生の取組を更に加速化させるため、「山口市スマートシティ推進ビジョン」を策定した。

山口県山陽小野田市　「山陽小野田市 LABV プロジェクト」

○　市の概要

山陽小野田市は山口県の南西部に位置し、下関市、宇部市、美祢市と接してる。市北部の市境一帯は、標高 200～300m程度の中国山系の尾根が東西に走り、森林地帯となっている。中央部から南部にかけては、丘陵性の台地から平地で、海岸線一体はほとんど干拓地となっている。市内中央部には厚狭川、有帆川が流れ、平地部を通って瀬戸内海に注いでいる。市街地は、これら丘陵地から平地部を中心に発達した。この市街地を取り囲むように丘陵の里山、河川、干拓地に拡がる田園地帯、海などの豊かな自然のほか、森と湖に恵まれた公園や海や緑に囲まれたレクリエーション施設があり、優れた自然環境に包まれている。気候は、年間を通じて温暖で、降水量の少ない瀬戸内海式気候を示し、住みやすい生活環境となっている。また、市内には山陽自動車道（小野田 IC、埴生 IC)、山陽新幹線（JR 厚狭駅）があり、隣接する宇部市には山口宇部空港があるなど、高速交通網の利便性が高い交通の要衝となっており、産業立地も好条件を備えている。

○　事業の概要

令和元年度に実施した「市有地利活用及びエリアマネジメント等に係る官民連携事業可能性調査」において、PPP 手法の一つである「LABV（Local Asset Backed Vehicle)」の手法により、老朽化が著しい商工センターの再整備事業及びエリアの複数の事業候補地における連鎖的事業の可能性について、定性・定量面で評価を行った結果、LABV プロジェクトの実現可能性が見込まれた。このことから、商工センターの跡地を活用した再開発をこれまで国内で事業化された事例がない LABV の手法で取り組むこととした。本プロジェクトでは、単なる複合施設整備ではなく、「にぎわいの再創出」につながる拠点開発を行い、エリア内（半径１キロメートル圏内）に波及させていくことを目指している。

視察を終えて（各委員の所感）

【　山口県３市を視察　　木　村　隆　彦　】

まちづくり委員会の行政視察として、宇部市、山口市、山陽小野田市の視察を行った。

初日の宇部市においては有機農業の取組、スマート農業や、農商工連携取組について視察した。２日目の山口市においては令和２年９月に山口市スマートシティ推進協議会を設立し、学識経験者を始め、産業や交通、医療、地域づくり、子育てなどの専門分野から委員を選任し、協議会が立ち上げられ、14項目の重点プロジェクトの具体化に向けた検討が始まった。令和６年１月よりタクシー配車アプリが利用開始され、タクシーの手配や配車車両の位置が確認できる「やまぐちTAXIアプリ」の実証実験を開始した。令和７年度からはタクシー事業者が主体となり事業を継続している。３日目には秩父市の姉妹都市である山陽小野田市を視察。山陽小野田市では「LABVプロジェクト」の視察を行った。LABVとは地方公共団体が土地を現物出資し、民間事業者が金銭を出資して創設するジョイントベンチャー型のまちづくり会社を中核に連鎖型まちづくりを推進していこうとするものである。令和６年４月にオープンした産学官金の複合施設を現地視察した。そこは旧商工センターの跡地を利用して１階にはカフェや山口銀行小野田支店、市の出張所、市民活動センター、中央福祉センターがあり、２階には山口銀行小野田支店や小野田商工会議所、地域職業相談室、市民活動センターが設置され、３階から５階までは山陽小野田市立山口東京理科大学の学生寮となっている。秩父市と同規模の人口の市でありながら、LABVプロジェクトを実行するには地域の連携が必要であると感じた。秩父市としてもまちづくりの観点からも参考になった視察であった。

【　まちづくり委員会行政視察を終えて　　小　松　穂　波　】

まちづくり委員会の行政視察として、農業政策・スマートシティ推進ビジョン・LABVプロジェクトなどを推進している先進自治体である、山口県宇部市、山口市及び山陽小野田市の行政視察を行なった。初日に訪問した宇部市は、次世代への継承のため強くて稼げる持続可能な農林水産業への転換を目指すため「宇部市農林水産業振興計画」を策定している。その中で、スマート農業・有機農業・農商工連携などを基本とした目標を定められ、計画に沿って実践されているが、現状に沿って概ね５年で見直しを行うなど、柔軟な取り組みが行われている。２日目に訪問した山口市では、「スマートシティ推進ビジョン」を策定し、生活者の視点を第一に考えたデジタル化を通じて、市民の安全安心や生活の質の向上、幸せづくり、また、地域経済の活性化に向けた取り組みを進めるため「誰もがいきいきと豊かに暮らせる持続可能なまち山口～スマート“ライフ”シティ山口～」を目指すまちの姿と捉え、スマートシティの推進体制を整え、山口市役所内に「公民連携推進室」を設置し、14の重点プロジェクトを進めている。最終日に訪問した山陽小野田市は、秩父市と姉妹都市提携を行っている自治体であり、現在、山陽小野田市は、国内初の取り組みである PPP 手法「LABV」にチャレンジされ、令和６年４月には、産官学金の複合施設をかつて中心市街地として栄えた地域の商工センター跡地にオープンさせている。この事業は、藤田剛二市長の強い意志（覚悟）からスタートしており強いリーダーシップを感じる視察となった。今後の自治体運営に産官学金連携と市民参画の重要性を改めて強く感じた有意義な視察研修となった。

【　まちづくり委員会視察報告書　　出　浦　章　恵　】

山口県山口市では、人口減少や、少子高齢化、地球温暖化などに伴う地域課題を解決し新たな価値を生み出す持続可能なまちづくりを加速していくことが重要と位置づけ、「スマートシティ推進ビジョン」を策定している。コロナ禍で加速したデジタル化に対応しスマートシティの取り組みを進め、地域経済の活性化を図り安心して暮らし続けられ地域社会を構築するための取り組みとして、交通、行政、子育て、教育など暮らしを支える様々な分類における課題解決に向け、連携事業者を中心とした分野ごとの分科会を設置し具体的な施策・サービスの社会実装を行っている。民間事業者からの事業提案をもとに推進協議会で事業内容の整理・検討を行い14の重点プロジェクトの具体化に向けた検討を進めている。

その中の重点プロジェクト14、阿東スマートビレッジでは、主な取り組みとして地域内の移動手段の確保として、免許返納者が増大する中で移動手段の選択肢の少なさによりコミュニティの維持が困難になっていることからトヨタモビリティ基金助成事業を活用し、自宅から地域内拠点等までの送迎を行うことで地域に合った移動の仕組みづくりを実証している。

阿東地域地福地区の人口 1,100 人の足の確保は、公共交通のバス会社が３社あり、バス１回の乗車につき 100 円の乗車証を配布している。（障がい者は無料）また、タクシーも距離に応じ、遠い所は 700 円、 500 円、 300 円と乗車券を配布する取り組みを展開している。

高齢者の足の確保は大変重要であり、免許返納者にも手厚い支援が必要。秩父市でも山口市の取り組みを参考にしてより良い方法を検討する必要があると感じる視察となった。

【　まちづくり委員会行政視察を終えて　　黒　澤　秀　之　】

まちづくり委員会として、農業振興、スマートシティの推進、市有地の有効活用と中心市街地の再生・活性化施策などの先進自治体として、山口県宇部市、山口市及び姉妹都市である山陽小野田市の行政視察を行った。宇部市は、国が進めるみどりの食料システム戦略目標に向けた有機農業経営耕作面積についてどのように増やしていくのかに苦慮しており、有機農業への取り組みの難しさを改めて実感した。特筆すべき点は、スマート農業導入事業補助金を活用し、農業の省力化に誠意取り組んでおり、当市における農業振興政策に大変に参考になるものとなった。山口市においては、スマートシティの推進に向けた様々な取り組みについて、公民連携を基軸として取り組んでおり、行政で出来ないものは民間を有効活用するといった考えが徹底している点が印象に残った。当市においても人口減少における手立てを行政のみで行わず、民間の力をもっと有効に活用すべきと改めて感じる視察となった。山陽小野田市では、PPP(官民連携）を全く行っていなかった自治体が、全国で初となる LABV(公民連携）を成し遂げた先進自治体であり、山口市同様に行政職員並びに首長の熱意が伝わる視察となった。とりわけ、将来における人口減少への対応を議会も含め、市全体が共有化している点に当市との違いを改めて感じる視察となった。３つの自治体の視察で改めて感じたことは、軸となる行政職員や首長の存在と、市民に対する説明責任の徹底、市民の寛容な理解が揃っている点である。人口減少社会は、全国の自治体が抱える大きな課題ではあるが、果敢に挑戦する人々の意志を強く感じた視察となった。

視察を終えて（各委員の所感）

【　まちづくり委員会行政視察報告　　内　田　　均　】

まちづくり委員会委員として、山口県宇部市、山口市、山陽小野田市において行政視察を実施したので報告する。

１日目は、宇部市にて有機農業の取り組みについて視察した。宇部市は山間地であり農業従事者が10年間で 900 戸減少、基幹的農業従事者の平均年齢も72.3歳と高齢化が進行している。そこで平成29年４月より有機農業を実践し、生産者だけでなく有機農産物を求める消費者、流通、販売店等を繋ぎ合わせ、誰もが有機農業を身近に感じる環境作りを目的とし、有機栽培講習会や体験会、調理講習会等を実施している。

２日目は、山口市スマートシティ推進ビジョンについて視察した。この取り組みは、課題の解決や地域経済の活性化を図り、安心して暮らし続けられる地域社会の構築を目的とした計画である。14の重点分野に分け、プロジェクト別に具体化し検討実施、市政に反映させる取り組みで、住みやすく豊かに暮らせる持続可能な街づくりに有効な施策であると感じた。

３日目は、山陽小野田市のLABVプロジェクトを視察した。LABVとは、自治体が公有地を現物出資し、民間事業者が金銭を出資して創設するジョイントベンチャー型のまちづくり会社を中核に連鎖型まちづくりを推進する事業である。この地域はかつて小野田セメントの繁華街として栄えていたが衰退しており、このプロジェクトで賑わいを取り戻そうとしていた。地方創生には新しい取り組みであると感じた。

以上が今回の視察報告となるが、今後の秩父市のまちづくりに活かしていきたい。

【　まちづくり委員会行政視察報告　　髙　野　　宏　】

まちづくり委員会行政視察は、山口県宇部市の「農業政策について」、山口市の「山口市スマートシティ推進ビジョンについて」、山陽小野田市の「山陽小野田市LABVプロジェクトについて」、３市を訪問し、先進事例や施策、事業の進捗状況、成果等の研修を受けた。

１日目の10月15日は、山口県宇部市を訪問し、有機農業の取り組み、スマート農業について、「農林水産業振興計画」、「有機農業推進計画」の概要と現状について、有機農業の取り組みの現状、スマート農業導入事業の効果の現状等、農商工連携の取り組みについて、「うべ元気ブランド」、「うべまるごと元気ネットワーク」の概要、現状と農商工連携の主な施策と課題等について、各担当職員から詳細な説明を受け、議員からも多くの質問が出て、大変参考になる研修となった。２日目の10月16日は、山口市を訪問し、「スマートシティ推進ビジョン」の策定についての説明を受けた。スマートシティの推進にあたり、急速に進展するデジタル技術等を最大限活用し、人口減少や、少子高齢化、地球温暖化などに伴う地域課題を解決し、新たな価値を生み出す持続可能なまちづくりを加速化していくことを目的として各分野の課題に取り組んでいるとの詳細な報告を専門の職員より受け、貴重な研修ができた。３日目の10月17日は、山陽小野田市の「LABVプロジェクト」について視察研修した。このプロジェクトの具体的な内容と完成した建物を見学し、官民連携・大学との協働の仕組み、プロジェクトにおける行政・企業・大学・市民の役割等詳細な報告を受けられた。

今回の３市の訪問は、秩父市のまちづくりにも大変参考になる視察研修であった。